

## 平成 25 年度第 1 回理事会議事録

日時：平成 25 年 6 月 1 日(土) 10:00～14:50

場所：フクラシア東京ステーション 5階H

出席者：

理事長：小西 郁生

副理事長：岡井 崇、落合 和徳

理事：岩下 光利、石原 理、宇田川 康博、大道 正英、片渕 秀隆、吉川 史隆、  
工藤 美樹、小林 浩、田中 憲一、堂地 勉、深谷 孝夫、平松 祐司、八重樫 伸生、  
吉川 裕之、吉村 泰典

監事：岡村 州博、武谷 雄二、和氣 徳夫

第 68 回学術集会長：井坂 恵一

幹事長：矢野 哲

副幹事長：澤 倫太郎

幹事：上田 豊、金内 優典、岸 裕司、北澤 正文、小林 陽一、榊原 秀也、下平 和久、  
高倉 聡、多賀谷 光、津田 尚武、永瀬 智、難波 聡、阪埜 浩司、藤原 浩、  
増山 寿、山下 隆博

総会議長：佐川 典正

総会副議長：内田 聡子、清水 幸子

専門委員会委員長：青木 陽一

理事会内委員会委員長：竹下 俊行、竹田 省

第 66 回プログラム委員長：濱田 洋実

名誉会員：神保 利春、中林 正雄

弁護士：平岩 敬一

事務局：桜田 佳久、青野 秀雄、小山 圭子

10 時 00 分 理事長、副理事長、常務理事、理事の総数 25 名のうち、18 名が出席し（海野信也理事、嘉村敏治理事、木村正理事、上妻志郎理事、水沼英樹理事、水上尚典理事、峯岸敬理事は欠席）定足数に達したため、小西郁生理事長が開会を宣言した。小西郁生理事長が議長となり、議事録署名人として、理事長、岡村州博監事、武谷雄二監事、和氣徳夫監事の計 4 名を選任し、これを承認した。

冒頭に小西郁生理事長から、「今後は国民に対して広く産婦人科をアピールしていく必要があり、外部の方々の目線を入れた産婦人科紹介プログラムを検討して行きたい」旨の挨拶があった。

### I. 平成 24 年度第 4 回理事会議事録の確認

原案通り、承認した

### II. 主要協議事項

#### 1. 平成 24 年度確定決算について

(1)5 月 17 日に平成 24 年度の決算監査を行い、併せて会計担当理事会を開催した。平成 24 年度決算については 6 月 22 日の総会に諮る予定である。〔資料：協議会計 1、2、3〕

岡井崇副理事長より平成 24 年度の決算報告がなされた。

平松祐司理事「平成 24 年度は国内渉外費が急減しているが、この原因はなにか。」

桜田佳久事務局長「平成 23 年度には東日本大震災の支援関連支出があったためである。」

岡村州博監事より会計および業務監査についての報告がなされ、本決算報告を定時総会に諮ることが承認された。

平成 24 年度決算について、特に異議なく、全会一致で承認された。

## 2. 運営委員会の答申について [資料：運営委員会 1]

- (1) 平成 25 年度定時総会（開催日時：6 月 22 日（土）14：00～15：30、場所：都市センター）の議案について [資料：運営委員会 2、2-1]

**岩下光利委員長**「今回は、定時総会前に関係省庁、関係団体の方々を招いて、理事長から産婦人科の現状と方向性および少子化問題に対する本会の姿勢などを講演し、それに対する関係者からのコメントをいただくということも考えている。」

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

- (2) 若手医師確保に関するワーキンググループ提言について [資料：運営委員会 3、3-1]

**平松祐司委員長**「各大学、各専攻医指導施設で本会入会者を 1 名増やす、プロジェクト Plus One を進めて行きたい。6、7 月に説明会を行うことに加えて ALSO を使ったプログラムも進めたいが、これには対象 20 施設として学会からおよそ 2,000 万円くらいの支援も必要になる。さらにホームページに産婦人科の広場のようなものを開いて広くアピールしていく必要がある。この方針で進めてよいか、ご意見をいただきたい。」

**岡井崇副理事長**「産婦人科医の確保について大学がそれぞれ努力をして、それに対して学会がバックアップすることは大変よいと思う。」

**小西郁生理事長**「ALS01 回あたり上限 100 万円として参加人数に応じて支援をする、ということで考えたい。」

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

- (3) 森まさこ内閣府特命担当大臣との面談

5 月 22 日に小西郁生理事長、岩下光利常務理事、吉村泰典理事および福島県立医科大学藤森敬也教授が森まさこ内閣府特命担当大臣（消費者及び食品安全、少子化対策、男女共同参画）と面談し、小西郁生理事長から日本の周産期医療事情の厳しさ、少子化対策における“若い女性のヘルスケア”の重要性についての説明を、藤森敬也教授から切迫した福島県での周産期医療事情の説明を行った。 [資料：運営委員会 4]

**小西郁生理事長**「晩婚晩産化のなかでの少子化問題への対応は女性ヘルスケアを通じた産婦人科の出番ともいえる訳で、様々な場でアピールしていきたい。」

小西郁生理事長の提案につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

- (4) 女性手帳の発刊について [資料：運営委員会 5]

**岩下光利委員長**「昨日の運営委員会では本会の使命として、女性手帳を発刊することについての賛成意見は多かったが、電子媒体の利用や作成時期などについて詰めていく必要がある。」

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

- (5) 不妊治療で妊娠前に実施される検査に風疹抗体検査を含めることについて [資料：運営委員会 6]

**岩下光利委員長**「生殖・内分泌委員会で検討して学会員への周知を図ることとしたい。」

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 3. 倫理委員会について

- (1) 「出生前診断に行われる遺伝学的検査および診断に関する見解」の改定について

[資料：協議 倫理 1]

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

- (2) 「ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する見解／考え方」の改定について

[資料：協議 倫理 2]

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

#### 4. その他 特になし

## II. 専門委員会報告並びに関連協議事項

### 1) 生殖・内分泌委員会（峯岸敬委員長） 特になし

### 2) 婦人科腫瘍委員会（青木陽一委員長）

(1) 「HPV ワクチンの効果と安全性に関する調査委員会」（仮称）の立ち上げについて

委員長：井篁一彦先生（和歌山県立医科大学）

委員：塩沢丹里先生（信州大学）

長井 裕先生（琉球大学）

長谷川清志先生（藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院）

深澤一雄先生（獨協医科大学）

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2) 日本乳癌学会より、同ガイドライン 2013 年版 CQ33 「BRCA 遺伝子に変異を有する女性に対する卵巣がん検診の有効性」に関して、科学的妥当性や社会に公表するにあたり妥当な内容であるか、について本会の意見を求めてきた。[資料：専門委員会 2]

**小林浩理事**「検診は推奨しない、というのが正しいのではないかと。少なくともスクリーニングがよいと断定しない方がよい。」

**落合和徳副理事長**「解説の最後の部分は、『・・・その有用性については確立していない』で止めるとよいのではないかと。」

**小西郁生理事長**「CQ のアンサーは重要である。検診が有用であると認識されると問題があるので、このアンサーの表現を変えてもらう必要があると思う。」

本件については、理事会での議論を踏まえ、関係の先生方でアンサーの表現を協議して、日本乳癌学会に回答することが全会一致で承認された。

### 3) 周産期委員会（海野信也委員長） 特になし

### 4) 女性ヘルスケア委員会（堂地勉委員長）

(1) ホルモン補充療法ガイドライン 2012 頒布状況について

5 月 22 日現在、入金済 3,267 冊、校費支払のため後払希望 18 冊。

(2) プレフェミン検討委員会の開催について

一般医薬品（プレフェミン）の審査を行っている厚生労働省医薬食品局審査管理課から、プレフェミンに対しての本会の意見を求めてきた。[資料：専門委員会 1]

**小西郁生理事長**「月経前症候群は症状が多様である一方、一般医薬品として販売されるとかなり広く使われる可能性がある。」

**吉村泰典理事**「厚生労働省としてはこの医薬品についての学会の推薦をもらいたい、ということなのか。」

**落合和徳副理事長**「厚生労働省は OTC 化を推進する方針を持っており、その過程で学術的な観点からの学会の意見を聞いていると思われる。」

**小西郁生理事長**「本会として女性ヘルスケアに力を入れて行こうというなかでは、患者さんには、一般医薬品を使って自分で対応するより、産婦人科に相談してもらう方がよい。」

**堂地勉委員長**「使用上の注意には『1 ヶ月程度服用して良くならない場合は、医師等に相談する』というように書かれてある。」

**吉村泰典理事**「月経前症候群は最近注目されているが、専門家も少なくその治療は難しい。そのなかで学会がこれを一般薬として認めることは慎重に検討する必要があるのではないかと。」

吉川裕之理事「現段階では、患者さんの自己診断が難しい疾患なので専門家に相談して服用することが望ましいという立場でよいように思う。」

小西郁生理事長「以上の意見を踏まえて検討委員会で一般医薬品として出すことの可否を含めて再度検討してみしてほしい。」

本件につき、プレフェミン検討委員会で再度検討することが、全会一致で承認された。

落合和徳副理事長「厚生労働省のOTC化推進方針については、今後も情報収集して、学会として注意喚起すべき点はしていく必要があると思う。」

### Ⅲ. 業務担当理事報告並びに関連協議事項

#### 1) 総務 (岩下光利理事)

##### 〔Ⅰ. 本会関係〕

(1) 会員の動向 なし

(2) 年代別・男女別会員数について [資料：総務 1-1]

(3) 平成 24 年度事業報告について [資料：総務 1]

総会資料に基づいて作成した平成 24 年度事業報告書を内閣府に提出する。

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4) 平成 25 年度定時総会時のビジネスミーティング日程について [資料：総務 2]

(5) 特任理事の選任について

特任理事として、齋藤滋先生、海野信也先生、南佐和子先生、宮城悦子先生、種部恭子先生を選任したい。任期は 6 月 22 日就任の次期役員との任期と同一となる。

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(6) 幹事長、副幹事長の交代および委嘱について

矢野哲幹事長が本日退任されることになった。新幹事長を澤倫太郎先生に、新副幹事長を阪埜浩司先生に委嘱したい。

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(7) 第 66 回学術集会における学術集会幹事について

以下の 5 名の先生方に幹事を委嘱したい。

松本光司先生、水口剛雄先生、小畠真奈先生、小貫麻美子先生、安部加奈子先生

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(8) 横浜市立大学の平原史樹先生から、「妊娠中に風疹含有ワクチンを誤って接種した場合の対応について」本会会員への情報提供依頼を受領した。本会ホームページおよび機関誌に掲載して会員への周知を図ることとした。[資料：総務 3]

(9) 会員管理・総務・e 医学会立ち上げを担当する事務局の新規職員 1 名について、岩下光利理事、澤倫太郎副幹事長が面接し、採用を決定した。

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

##### 〔Ⅱ. 官庁関係〕

(1) 厚生労働省

① 同省雇用均等・児童家庭局母子保健課より、健やか親子 21 全国大会 (2013 年 10 月 31 日～11 月 2 日、群馬県民会館ベイシア文化ホール) の後援依頼を受領した。経済的負担はなく、

これを応諾したい。

(2) 文部科学省

同省研究振興局より 7 月 17 日締切にて、平成 26 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞および若手科学者賞受賞候補者の推薦依頼を受領した。[資料：総務 4]

〔Ⅲ. 関連団体〕

(1) 日本医学会

第 29 回日本医学会総会 2015 関西について、各分科会の 2013 年、2014 年開催の学術集会・総会等で、ポスターの掲示や広報要スライドの放映を行ってほしいとの依頼を受領した。

[資料：総務 5]

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2) 日本がん治療認定医機構

5 月 15 日開催の 2013 年度関連学会連絡委員会に出席いただいた紀川純三先生から、本会に関して特に問題となる議題はなかったとの報告を受領した。[資料：総務 6]

(3) 禁煙推進学術ネットワーク

同ネットワークが提出予定の厚生労働大臣あての「ニコチン依存症管理料」の算定要件等の見直しに関する要望書について、本会も賛同することとした。[資料：総務 6-1]

(4) 全日本病院協会

全日本病院協会、日本病院会、サノフィが共催する「明日の象徴」顕彰プログラムの候補者推薦依頼（7 月 10 日締切）を受領した。[資料：総務 6-2]

〔Ⅳ. その他〕

(1) 第 18 回日本病態プロテアーゼ学会学術集会（2013 年 8 月 16、17 日、千里ライフサイエンスセンターで開催）への後援名義使用依頼を受領した。経済的負担はなく、これを応諾したい。

(2) 神奈川県保険医協会より、第 28 回保団連医療研究集会（2013 年 10 月 12～13 日、横浜ベイシェラトン&タワーズ）への後援名義使用依頼を受領した。経済的負担はなく、これを応諾したい。

(3) 愛媛県西予市から、第 2 回西予市おイネ賞事業懸賞作文応募の周知依頼を受領した。

(4) 鹿児島県大島郡徳之島町、天城町、伊仙町から同町の産婦人科医不在に関して本会への支援依頼を受領した。[資料：総務 7]

**岩下光利理事**「支援対象の病院が公的病院ではないため JOB-NET には載せられない。鹿児島もしくは九州地区で応援する方策を考えてほしい。」

**堂地勉理事**「非常に残念だが鹿児島大学としては対応が難しい。九州連合で議論したい。」

**岡井崇副理事長**「この要望について、ホームページの掲載など何らかの形で学会員に伝えた方がよい。」

**吉川史隆理事**「町からの依頼であり、公的な扱いとして JOB-NET に載せられるように思う。」

**岩下光利理事**「JOB-NET の規約を確認して、必要であれば改定することを含めて対応を考えたい。」  
本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 2) 会 計 (岡井崇副理事長)

- (1) 取引銀行の格付と預金残高について [資料: 会計 1]

## 3) 学 術 (峯岸敬理事欠席につき、藤原浩主務幹事)

- (1) 学術委員会関連

① 会議開催

平成 25 年度第 1 回学術委員会を 5 月 31 日に開催した。

② 平成 25 年度学術奨励賞公募について [資料: 学術 1]

③ 平成 25 年度優秀論文賞公募について [資料: 学術 2]

④ 平成 25 年度「日本医師会医学賞」「日本医師会医学研究奨励賞」候補の推薦について [資料: 学術 3]

- (2) プログラム委員会関連

① 第 66 回学術講演会プログラム委員会

プログラム (案)、一般演題応募について [資料: プログラム委員会 1]

**藤原浩幹事**「ポスター表示は原則英語・日本語可、当日発表は日本語あるいは英語、ただし英語で発表した場合は IS 国内演題を勧める、とした。」

**吉川裕之第 66 回学術集会長**「6 つの教育講演は Imagine the Future の標語に沿った内容をお願いしている。またポスター表示の英語比率は 60%程度を目指したい。」

② 第 67 回学術講演会プログラム委員会

特別講演・シンポジウム演者公募について [資料: プログラム委員会 2]

③ 第 68 回学術講演会プログラム委員会

シンポジウム課題公募について [資料: プログラム委員会 3]

## 4) 編 集 (上妻志郎理事欠席につき、山下隆博主務幹事)

- (1) 会議開催

5 月 31 日に編集担当理事会を開催した。

- (2) 英文機関誌 (JOGR) 投稿状況: 2013 年投稿分 (5 月 17 日現在) [資料: 編集 1]

投稿数 459 編 (うち Accept 30 編, Reject 179 編, Withdrawn/Unsubmitted 95 編, Under Revision 31 編, Under Review 124 編, Pending 0 編, Expired 0 編)

## 5) 渉 外 (木村正理事欠席につき、上田豊主務幹事)

[会議開催] なし

[FIGO 関係]

- (1) FIGO Working Group in Pelvic Floor Medicine and Reconstructive Surgery (7 月 9 日～11 日、於: ブラジル サンパウロ) に、本会より古山将康先生を派遣の予定である。

- (2) ラテンアメリカからの FIGO 理事国 (7 カ国) へ、もし本会の予算が許せば日本の医療事情視察ツアーに参加する意思があるか尋ねたところ、コロンビア、ボリビア、ウルグアイの理事から意思あり (一部条件付き) の返答があった。

[ACOG 関係]

- (1) 61<sup>st</sup> ACOG ACM (5 月 4～8 日、於: ニューオーリンズ) に、落合和徳副理事長、木村正渉外担当常務理事、阪埜浩司幹事、若手医師 6 名、事務局武田香代子職員を派遣した。

[資料: 渉外 1]

**阪埜浩司幹事**「ここ 2 年間、ACOG に派遣された若手の先生方は先方の病院を視察させていただいているが、将来的には ACOG の若手が日本に来た時には日本の施設を見学させてあげることができるとよいと思う。」

(2) ACOG ACM への本会学術講演会担当校からの派遣者枠について

**上田豊幹事**「今後、ACOG から派遣された若手医師が日本の病院を見学する場合、学術集会担当校の先生方には病院を手配いただく必要がある。それを考えると日本から派遣している 6 名の先生のうち、希望があれば担当校から 1 名を出していただくのはどうかという提案である。」  
本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) ACOG Task Force on Neonatal Brachial Plexus Palsy について [資料：渉外 2]

(4) ACOG "Neonatal Encephalopathy and Neurologic Outcome 2nd Edition" について教授 6 名による検討の結果、本会として endorse する旨、ACOG へ連絡した。

[KSOG 関係]

(1) The 99th Annual Congress of KSOG 2013 & the 18th Seoul International Symposium (9 月 27 日～28 日、於：韓国 ソウル)へ本会より小西郁生理事長および木村正渉外担当常務理事を派遣の予定である。

[その他]

(1) 第 65 回日産婦学会学術講演会会期中の海外ゲストとのミーティングについて

【FIGO】

- ・自然災害発生時における産婦人科医療提供に関するセッションについて、FIGO との協力を検討することとなった。
- ・FIGO World Congress 2021 について、インドとオーストラリアが FIGO に打診してきているとの情報を得た。

【ドイツ】学会間での Exchange Program Agreement 締結を検討することとなった。

【カンボジア】本年 8 月 9 日に開催されるカンボジア産婦人科学会へ本会から講師を派遣し、子宮頸癌、および産科出血に関する講演を行うこととなった。派遣する講師の人選については渉外にご一任いただきたい。

【ACOG】二国間の Exchange Program は充実し有意義なものであり、今後も継続していくことを確認した。

<今後の ACOG ACM 日程>

2014 年 62nd ACM シカゴ (4 月 26～30 日)

2015 年 63rd ACM サンフランシスコ (5 月 2～6 日)

2016 年 64th ACM ワシントン (5 月 14～18 日)

**平松祐司理事**「外国の学会の事務局には理事長秘書として動いている人もいる。本会の渉外や広報領域は今後も多忙になることが考えられるので、そのような役割の人員の必要性についても検討いただきたい。またカンボジアとの関係は今後どう進めていく予定なのか。」

**小西郁生理事長**「カンボジアの若手に日本に来てもらって、勉強していただくプログラムは進めている。」

**上田豊幹事**「日本から 8 月にカンボジアへ行って講演を行っていただき、1 週間ほど滞在して現地の病院で指導するプログラムも進めている。」

**岩下光利理事**「事務局員は 1 名増員するが、渉外領域で更に必要であればまた考えることになる。」

## 6) 社 保 (吉川裕之理事)

(1) 会議開催 なし

(2) 日本医師会疑義解釈委員会より、「平成 25 年度第 1 回供給停止予定品目(25 疑 1420)」についての検討依頼を受領し、本会理事および社保委員による検討結果を回答した。

(3) 医療ニーズの高い未承認医療機器等の早期導入に関する要望の募集について [資料: 社保 1]

吉川裕之理事「外保連関連の腹腔鏡悪性腫瘍手術に関しては対象を子宮体がんに限るとして提出することになった。」

## 7) 専門医制度 (吉川史隆理事)

(1) 会議開催

平成 25 年度第 1 回中央委員会を 5 月 18 日に開催した。

(2) 日本専門医制評価・認定機構

平成 25 年度第 1 回社員総会が 5 月 21 日に開催され、吉川史隆委員長が出席した。

(3) 専門医制度規約・施行細則の改訂[資料: 専門医制度 1]

指導医制度の施行に伴い専門医制度規約・施行細則の一部を改訂した。

石原理理事「専門医制度規約において、専門医については認定申請する者の要件を書いているが、指導医については要件が書かれていない。専門医取得後 3 年という要件があるのであれば少なくともそれは記載すべきではないか。」

吉川史隆理事「今年度中に第 3 者機関が設置されると、そこから様々な基準を要求してくることが考えられるが、規約等の変更は総会を通す必要があり、細かく規定すると身動きが取れなくなる可能性がある。専門医制度の概要には要件を記載している。」

石原理理事「資格要件については規約に載せておくべきではないか。」

佐川典正義長「専門医制度規約・施行細則は機関誌に掲載されるのでみんな見るが、専門医制度の概要はどこにあるか分かりにくい。どこを見ればよいか示しておく必要がある。」

吉村泰典理事「規約の中に、指導医の基準は別途内規に定める、という項を挿入してはどうか。また指導責任者は指導医でなければならないという項は現実的なのか、検討する必要はないか。」

吉川史隆理事「このあと新しい指針が出てくる予定なので、今後ご指摘の問題点が出てくるようであれば平成 29 年度までに変更をすることを検討したい。」

小西郁生理事長「専門医制度規約施行細則の地方委員会の条項では、地方委員会が専門医を認定すると書いてあるようにも読めるので、誤解されないよう記述を修正した方がよい。」

吉川史隆理事「平岩敬一先生のご協力を得て改定版を作成した。新たに条項を追加して『指導医の資格要件は別途定める』とし、地方委員会の条項も部分修正した。」

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4) 指導医制度の施行についての会員へのお知らせ[資料: 専門医制度 2]

指導医制度の施行についての会員へのお知らせを学会ホームページ、機関誌に掲載する予定である。

石原理理事「お知らせの案文で、平成 26 年度より全ての指導責任医を暫定指導医とするという記述が重複しているように思われるし、平成 26 年度に新たに専攻医指導施設を申請するのにはどうするかを書く方がロジカルであるように思う。」

岩下光利理事「最後のパラグラフは平成 26 年度以降に具体的にどうなるかをわかりやすく示さないと、会員からの質問が多数来ることになるのではないか。」

石原理理事「経過措置期間に新規に専攻医指導施設になれるのかが重要なポイントだと思う。原文だとそれまでに指導医がいない限り専攻医指導施設になれないと読める。」



吉川史隆理事「最後のパラグラフについては、もう少し練ってお示ししたい。」  
本件については、再検討となった。

(5) 専門医認定申請に関わる会員へのお知らせ[資料：専門医制度 3, 4, 5]  
専門医認定申請に関わる会員へのお知らせを、学会ホームページ、機関誌に掲載する予定である。  
本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(6) 専門医認定および更新申請に係る処分に関する内規について [資料：専門医制度 6]  
岩下光利理事「嚴重注意に合格の取消しや指導医の資格停止が入っており、また譴責も同様の内容になっており違いがはっきりしない。また専門医制度の処分内規に除名等の項を設けて会員の退会勧告や除名等の処分まで入れる必要があるか疑問である。」

小西郁生理事長「もう少し検討してみることにしたい。」  
本件については、再検討となった。

(7) 平成 24 年度専門医認定への不服申し立てとそれに対する本会回答について  
[資料：専門医制度 7-1、7-2]  
本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(8) 臨床試験医師要請協議会から、「臨床試験ベーシックナビ」が送付されてきた。専門医要請教育の一環として利用してほしい、とのことである。[資料：専門医制度 8]

(9) 5 月 11 日に札幌で「指導者のための講習会」が開催された。参加人数は事前に地方委員長からの推薦者が 78 名、当日参加者が 113 名、合計 191 名であった。  
小林浩理事「これの正確な呼び方は、指導医講習会なのか、指導者講習会なのか。」  
吉川史隆理事「指導医講習会が正しいので、今後は統一したい。また専門医制度規約・施行細則もそのように修正する。」

(10) 公益社団法人日本臨床細胞学会から、同学会が本会を基盤学会とした細胞診専門医の申請を行いたいので、本会から日本専門医制評価・認定機構に推薦してほしい、との依頼を受領した。[資料：専門医制度 9]  
小西郁生理事長「特に問題はないと思うのでお認めいただきたい。」  
本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 8) 倫理委員会 (落合和徳委員長)

- (1) 本会の見解に基づく諸登録 (平成 25 年 4 月 30 日)
  - ①ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：44 研究
  - ②体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：577 施設
  - ③ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：577 施設
  - ④顕微授精に関する登録：519 施設
  - ⑤非配偶者間人工授精に関する登録：15 施設
- (2) 着床前診断に関する臨床研究申請・認可について [資料：倫理 1]  
5 月 20 日現在申請 330 例 [承認 281 例、非承認 4 例、審査対象外 19 例、取り下げ 2 例、照会 19 例、審査中 5 例] (承認 281 例のうち 8 例は条件付)
- (3) 会議開催
  - ①「ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する見解／考え方」に関する改定ワーキンググループ委員会を 5 月 14 日に開催した。
  - ②平成 25 年度第 2 回倫理委員会を 5 月 21 日に開催した。

- (4) JISART より、同法人が 8 月 17～18 日に生殖医療サマーフォーラムを開催するにあたり、全国の各大学、病院、その他施設に在籍する若手医師、学生たちにフォーラムの案内を行うことにつき、小西郁生理事長の承認をいただきたいとの依頼を受領した。[資料：倫理 2]  
本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 9) 教育（八重樫伸生理事）

### (1) 会議開催

- ① 5 月 31 日に若手育成委員会との第 1 回合同委員会を開催した。  
② 5 月 24 日に第 3 回試験問題作成委員会を開催し、試験問題については、ほぼまとめの段階に入った。

### (2) 用語に関する意見

昨年 6 月に意見聴取を行った「癒着胎盤」用語の変更につき会員より反対意見を受領したので、次期教育委員会・用語小委員会で検討する予定である。

### (3) 海外派遣について

The 99<sup>th</sup> Annual Congress of KSOG 2013 & the 18<sup>th</sup> Seoul International Symposium (2013 年 9 月 27 日(金)～28 日(土)) について募集を行った（派遣予定 3 名）。  
募集開始 4 月 26 日、募集締切 5 月 17 日と非常に短い期間であったが、16 名の応募があった。現在、審査をお願いしている。

### (4) 関東連合における書籍販売ならびに電子書籍デモについて

6 月 15 日(土)・16 日(日)の両日にわたり東京・都市センターホテルにおいて開催される関東連合第 125 回学術集会において、学会発刊書籍の販売ならびに電子書籍の iPad 貸し出しによるデモンストレーションを行う予定である。

### (5) 産婦人科研修の必修知識 2013 冊子版、PC 版頒布について

産婦人科研修の必修知識 2013 については、当初、電子書籍（タブレット端末のみ対応）での発刊を予定していたが、5 月号掲載案内を読まれた先生方からタブレット端末を所有していないため冊子版ならびに PC 版での発行を望む意見が寄せられた。冊子版ならびに PC 版の発刊を前向きに検討したく見積りを依頼した。[資料：教育 1]

**八重樫伸生理事**「USB だとコピーされる可能性が排除できないので、冊子版で対応することとしたい。」

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

### (6) 厚生労働省大臣官房統計情報部および WHO 国際統計分類協力センターより、7 月 31 日を期限として、ICD-10 の一部改正に係る本会の意見を求めてきた。[資料：教育 2]

**八重樫伸生理事**「教育委員会、用語小委員会で検討して意見をまとめたい。」

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

### (7) 「産婦人科研修の必修知識 2011」頒布状況について

5 月 22 日現在、入金済 6,814 冊、校費支払のため後払希望 52 冊。

### (8) 「若手のための産婦人科プラクティス」頒布状況について

5 月 22 日現在、入金済 1,961 冊、校費支払のため後払希望 37 冊。

### (9) 「用語集・用語解説集」頒布状況について

5 月 22 日現在、入金済 337 冊、校費支払のため後払希望 7 冊。

10) 地方連絡委員会 (落合和徳副理事長) 特になし

IV. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1) 広報委員会 (嘉村敏治委員長欠席につき、津田尚武主務幹事)

(1) 会議開催 なし

(2) ACOG Website 会員専用ページログイン可能人数について [資料: 広報 1]

(3) アッヴィ合同会社のバナー広告 (スモールベイビー.com) について、6月より1年間の掲載継続が決定した。

2) 未来ビジョン委員会 (吉村泰典委員長) 特になし

3) 震災対策・復興委員会 (岡井崇委員長)

(1) 震災対策ホームページについて

岡井崇委員長「震災対策マニュアルを含めた震災対策ホームページを作成中である。この場でデモンストレーションを行い、皆様のご意見をうかがいたい。」

落合和徳副理事長「大変すばらしいものが作られていると思う。6月22日の記者会見でぜひ説明するとよい。事前にメディアに情報を投げ込んでおくともよいのではないか。」

4) 診療ガイドライン委員会 (吉川裕之学会側調整役)

(1) 産科編委員会 (水上尚典委員長)

①「産婦人科診療ガイドライン—産科編 2011」頒布状況について  
5月22日現在、入金済15,283冊、後払希望52冊。

②コンセンサスマーティングの開催

第1回を5月11日に札幌で開催した。第2回は6月9日に熊本で、第3回は7月14日に横浜で、第4回は8月4日に東京で開催する予定である。

(2) 産科編評価委員会 (海野信也委員長)

①会議開催 なし

(3) 婦人科外来編委員会 (八重樫伸生委員長)

①「産婦人科診療ガイドライン—婦人科外来編 2011」頒布状況について  
5月22日現在、入金済11,700冊、後払希望29冊。

②コンセンサスマーティングの開催

第1回を4月14日に大阪で、第2回を5月10日に札幌で開催した。第3回は6月16日に東京で開催する予定である。

(4) 婦人科外来編評価委員会 (峯岸敬委員長)

①会議開催 なし

5) コンプライアンス委員会 (平松祐司委員長)

平松祐司委員長「今年もCOIの提出依頼を行うが、何度催促しても回答の無い先生がいる。全体のスケジュールが遅れるので、2回目の督促から『〇月〇日までの回答が無い場合はその役職

から降りてもらう』の文言を入れたいと考えているが、それでよいか。」  
本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

#### 6) 医療改革委員会（海野信也委員長欠席につき、澤倫太郎副委員長）

(1) 5月31日に医療改革委員会を開催し、平成24年度医療改革アクションプラン総括(案)および平成25年度医療改革アクションプラン(案)について協議した。[資料：医療改革1、2、3]

#### 7) 男女共同参画・女性の健康週間委員会（竹下俊行委員長）

(1) 会議開催 なし

(2) 第65回日本産科婦人科学会学術講演会男女共同参画・女性の健康週間委員会企画について  
[資料：男女共同1]

竹下俊行委員長「シンポジウムの際に託児所に関するアンケートを行った。有料でも託児所を設置してほしいとの意見も比較的多く、今後の検討課題としたい。」

#### 8) 若手育成委員会（齋藤滋委員長欠席につき、金内優典主務幹事）

(1) 会議開催

① 5月11日に札幌において第7回産婦人科サマースクールの打合せを行った。

② 5月31日に教育委員会と合同で第1回若手育成委員会を開催した。

(2) 産婦人科スプリング・フォーラムについて

第4回産婦人科スプリング・フォーラムに関して日程を明年3月1日(土)・2日(日)の2日間にわたり開催する予定であったが、理事会との会期の重複が判明したため、代替日程・会場の調整を行っている。

小西郁生理事長「今年度第4回理事会の予定を1週間早めて、平成26年2月22日に開催することはできないか。」

本件につき、特に異議はなく、理事会の予定を1週間早めることで準備することとなった。

(3) サマースクールについて

① 第7回産婦人科サマースクールの応募を5月15日に開始した（締切は6月30日）。

② 第7回産婦人科サマースクール開催概要 [資料：若手育成1]

③ 第7回産婦人科サマースクール若手委員一覧 [資料：若手育成2]

#### 9) 臨床研究審査委員会（水沼英樹委員長） 特になし

#### 10) 医療安全推進委員会（岡井崇委員長）

(1) 一般社団法人医療安全全国共同行動から5月1日に法人として設立した旨の通知があった。

加えて本会の正会員としての登録依頼（一口5万円/年）と、設立記念シンポジウム・連絡会議（6月16日、イイノカンファレンスセンター）の出席依頼を受領した。[資料：医療安全1]

岡井崇委員長「本法人は、まだ基盤がしっかりしているとはいえない面もあり、現時点では本会としては様子見としたい。」

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2) 6月24日に開催される日本医療安全調査機構定時社員総会の案内を受領した。

[資料：医療安全2]

岡井崇委員長「社員総会には竹田省先生に出席をお願いしたい。」

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) 日本医療機能評価機構から、『第3回産科医療補償制度再発防止に関する報告書』に記載されている『学会・職能団体に対する要望』をもとに、産科医療の質の向上に向けて取り組んでほしい』との依頼を受領した。[資料：医療安全3]

11) 公益事業推進委員会（石原理委員長） 特になし

12) 情報管理委員会（竹田省委員長） 特になし

13) 婦人科領域のロボット支援下腹腔鏡手術に関する委員会（井坂恵一委員長）

(1) 会議開催

5月31日に第2回委員会を開催した。

(2) 婦人科悪性腫瘍に対するロボット支援下手術に関する指針（案）について

[資料：ロボット1]

井坂恵一委員長「実施基準では、施設基準をみたしていることを本委員会に届出、登録、年次報告を行うことや日本産科婦人科内視鏡技術認定医等と日本婦人科腫瘍学会腫瘍専門医を加えたチーム体制等で進めることが望ましいとしている。」

小西郁生理事長「子宮体がんの悪性腫瘍手術は全国かなりの所でできるということで進めていただきたい。」

吉川史隆理事「Intuitive Surgical社のトレーニングコースは手術チーム全員が受ける必要があるのか、またこのトレーニングは前提なのであえて指針に会社名を入れる必要はあるのか。」

井坂恵一委員長「術者と助手はトレーニングコースを受ける必要がある。また会社名については省いてもよいと思う。」

小西郁生理事長「本件は学会の指針としたい。」

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

V. その他

平松祐司理事「一般の産婦人科医が多数集まる学術集会の際に、〇〇宣言という形で学会からの提言を出し、マスコミなども入れて対外的にもアピールすることを考えてはどうか。」

小西郁生理事長「6月22日のフォーラムは一つの試みとして進めるが、今後はそのようなやり方も考えてみたい。」

以上

